

社会包摂デザイン・イニシアティブ+意匠学会共催シンポジウム

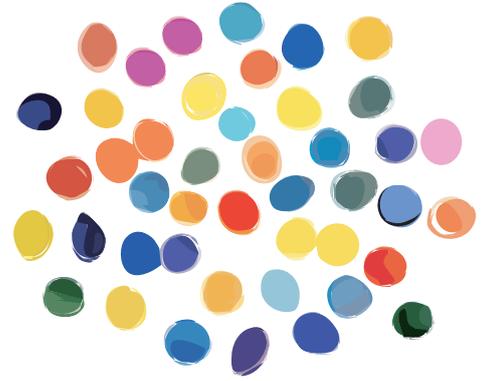
多様性と社会包摂の デザイン (online)

2021年9月12日 [日] 14:00開場

社会包摂デザイン・イニシアティブでは、プロジェクトのひとつとして、意匠学会の全国大会が九州大学芸術工学研究院で開催されることに合わせ、多様性と社会包摂のデザインをテーマとしたシンポジウムを、意匠学会との共同主催で実施します。

社会包摂デザインは、従来のデザインがかたちや色などモノのデザインを中心とした活動であるとするれば、社会の〈仕組み〉のデザインに特徴のひとつがあります。であるならば、かたちや色を中心とする従来の「意匠」としてのデザイン概念とどのような関係にあるのか、を改めて問うことが必要でしょう。また、

もうひとつのキーワードである「多様性」を真剣に捉えれば、普遍的な標準化を目標としていた近代デザインの価値に関わる問題も無視できないでしょう。このシンポジウムでは、こうした問題を取り上げます。そのために、まず社会包摂デザインイニシアティブの基本的な考え方と実践について紹介し、社会包摂デザインの基本概念を共有します。次に、視覚デザインの領域を中心とした3名の専門家から講演いただきます。最後にディスカッションを通して、意匠としてのデザインと社会包摂デザインとが協働するための条件や今後の有意義な関係のあり方を探ってゆきます。



第63回意匠学会大会

9月11日 [土] - 9月12日 [日]

プログラム

開場

14:00

14:15 - 14:35

01. 導入：社会包摂デザインと社会包摂デザイン・イニシアティブの活動

尾方義人 (九州大学芸術工学研究院教授)

14:35 - 15:55

02. ゲストによる講演：

定村俊満

(株式会社ソーシャルデザインネットワークス代表/前サインデザイン協会会長)

工藤真生

(九州大学芸術工学研究院助教, サインデザイン)

須長正治

(九州大学芸術工学研究院教授、色彩学)

休憩

16:05 - 16:35

03. ディスカッション

モデレータ：伊原久裕 (九州大学芸術工学研究院教授)

尾方義人 + 定村俊満 + 工藤真生 + 須長正治

04. 閉会式 (意匠学会大会と合同)

16:35 - 16:50

谷 正和 (九州大学副学長 大学院芸術工学研究院長)

谷本尚子 (意匠学会会長)

問い合わせ先：jsdc63th@gmail.com

大会 HP：https://jsdc63th.jimdofree.com/



主催 |



意匠学会



Design Initiative for
Diversity & Inclusion
社会包摂
デザイン・イニシアティブ

シンポジウム

多様性と社会包摂のデザイン

講演 01

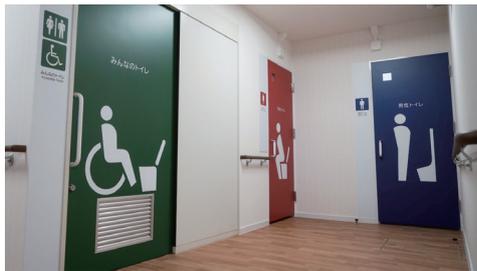
「認知症の人にも優しい記号のデザイン」

定村俊博

株式会社ソーシャルデザインネットワークス代表
前サインデザイン協会会長

「2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた案内用図記号作成検討委員会」委員、「福岡市ユニバーサル都市・福岡推進協議会」会長、「福岡市バリアフリー推進協議会」委員、「標準案内用図記号ガイドライン 2020 見直しに関する委員会」委員。

2025年には日本の高齢者5人に1人が認知症になると予測されている。しかし認知症の根本的な治療方法はなく、現在の治療は進行を緩やかにし、生活の質を高めることが目的とされている。高齢者や認知症患者が尊厳をもち、自身の力で日常行動を管理できる生活環境づくりが求められる中、認知症の人が表示物や記号情報をどのように理解するのか、そのメカニズムの解明に取り組んだ。



講演 02

「障害者本人から学ぶデザイン」

工藤真生

九州大学芸術工学研究院助教



教育施設におけるサイン計画に関する研究、知的障害者を対象とした色と形の認知学習を通じた案内用図記号の意味理解教育、知的障害児者にとって読み書きがしやすい書体に関する研究など、ピクトグラム及びサインのユニバーサルデザイン研究に従事。2015-2020年 特別支援教育に携わる。

2017年改訂の、JIS 標準案内用図記号ピクトグラムの理解度調査では、一般と同じ調査方法が障害者に実施され、121名中20名しか全調査に答えず、結果が参考扱いとされた。ピクトグラムという代表的な公共デザインですら、障害を有する当事者の意見を踏まえる意識、調査方法が未発達である。あわせてデザイナーの考える「やさしさ」「わかりやすさ」が、障害を有する人にとって、「やさしく」「わかりやすい」のかは、常に疑問であり、当事者の意見を聞き取り、デザインに取り入れる姿勢が求められる。本報告では、知的障害者を対象に行ったピクトグラム・サイン・書体の調査や実施事例、現在取り組んでいる、FINA2022 福岡サイン&ピクト UD プロジェクト、知的障害者を対象としたピクトグラムの理解度調査の方法や結果も紹介する。



講演 03

「カラーユニバーサルデザインを超えて」

須長正治

九州大学芸術工学研究院教授



九州大学主幹教授。カラーユニバーサルデザイン実践のためのデザイン教育手法の開発、2色覚を基点としたカラーユニバーサルデザイン手法の開発と実用化、色覚およびその知見のデザインへの応用など、特に、カラーユニバーサルデザインを中心に研究に従事。

カラーユニバーサルデザインとは、いわゆる「色覚異常」と呼ばれる特性を含む多様な色覚特性を持つ方へも、色彩による情報伝達を担保する配色法のことをいう。しかし、このカラーユニバーサルデザインはいわゆる「色覚正常」から「色覚異常」への配慮の域を出ない。現在、社会では色彩はコミュニケーション手段として用いられており、色彩が本当のコミュニケーション手段である双方向のものとなるためには、「色覚異常」を持つ人の色彩表現を「色覚正常」として理解できるのが鍵になる。そこで、本発表では、発表者がこれまで行ってきたカラーユニバーサルデザインに関する研究を紹介するとともに、様々な色彩表現に対する「色覚正常」の受容度についてのひとつの実験結果も紹介する。



第63回意匠学会大会

9月11日[土]ー9月12日[日]

9月11日[土]

■開会式 | 12:45ー13:00

■第1セッション | 13:00ー14:30

門田園子 | 日本プリント・テキスタイルにみられる国家の視覚化ー1953年エリザベス二世戴冠式から新生アフリカ国家イメージまで

井谷善恵 | 日英博覧会及び近代輸出陶磁器業界において数明山の果たした役割について

酒井公子 | 海の見える杜美術館蔵『舞の本絵本』の挿絵についてー「伏見常盤」を中心にー

■第2セッション | 14:50ー16:20

高見翔子 | クワクボリョウタの初期作品から「LOST」シリーズへの作品形式の変遷ー映像という視点からー

岡田(泊里)涼子 | 「木目」と「空」にみる素材観の変容ー化粧シートと銘木を対象としてー

天貝義教 | 立方体の展開図を使った組合せパズルの構成とプログラミング

■総会報告 | 16:30ー17:00

9月12日[日]

■第3セッション | 10:00ー11:00

山本 彩 | 雑誌「芝居とキネマ」におけるグラフィックデザインの展開

声高郁子 | 日本写真美術展覧会における「写真工芸」ー近代日本における写真、産業、商業の結びつきの萌芽をめぐってー

■パネル発表会 | 11:10ー11:50

星野祥子 | Moon Catcher

高橋紀子 | Missing

曾 品耘 | 対話するピクトグラム

工藤真生、伊原久裕、池田美奈子 | 中村哲医師メモリアル・アーカイブのグラフィックデザイン

休憩 | 11:50ー13:00

■第4セッション | 13:00ー14:00

千代章一郎 | 「装備」の制作におけるシャルロット・ペリアンとル・コルビュジエの共同性

鯉沼清悠 | 磯崎新の初期都市思想にみる反芸術的性格ー美術批評言説を手がかりにー

■シンポジウム 多様性と社会包摂のデザイン

14:15ー16:35

■閉会式

16:35ー16:50

会員以外の方も研究発表を聴講できます。
ご希望の方は、大会メールにてお問い合わせ下さい。
jsdc63th@gmail.com

主催 |



意匠学会



Design Initiative for
Diversity & Inclusion
社会包摂
デザイン・イニシアティブ